

土地改良事業変更計画書

農地中間管理機構関連農地整備事業(一般型)

大佐布瀬 地 区

岡 山 県

第1章	目的	1
第2章	地域及び地積	1
第1節	地域	1
第2節	地積	1
第3章	現況	2
第1節	気象及び海象	2
1	一般気象	2
2	特殊気象	2
3	海象	2
第2節	土地状況	3
1	地形、土壌及び侵食の程度	3
2	土地分類	4
3	土地利用の状況	5
4	土地所有の状況	5
第3節	水利状況	6
1	用水状況	6
2	排水状況	9
3	河川状況	12
第4節	道路概況	13
1	道路概況	13
2	主要道路一覧表	13
第5節	地域農業の概況	14
1	産業別就業人口	14
2	経営耕地広狭別農家数及び耕地の分散状況並びに主副業別農家数	14
3	動力農機具及び主要家畜頭数	15
4	主要作物作付状況	15
5	農業の動向	16
第6節	地域環境の概況	16
第4章	一般計画	17
第1節	事業計画の要旨	17
1	要旨	17
2	事業別面積	17
第2節	営農計画及び土地利用計画	18
1	営農計画の概要	18
2	土地利用区分	18
3	作付方式	19
4	生産計画	20
5	労働改善計画	21
6	級地別土地利用区分	21
7	土地配分計画	21

第3節	用水計画	22
1	計画基準年	22
2	計画かんがい方式	22
3	計画用水系統	22
4	計画用水量	24
5	水源計画	25
第4節	排水計画	27
1	計画基準雨量	27
2	計画排水方式	27
3	計画排水系統	27
4	計画排水量	27
5	排水対策	27
6	湛水検討	29
第5節	道路計画	30
1	道路及び索道	30
2	路線配置図	30
第6節	農用地造成計画	31
1	農用地造成計画	31
2	土壌改良	31
第7節	洪水調節計画	31
1	計画基準雨量	31
2	計画洪水量及び調節量	31
3	貯水池	31
4	洪水調節検討	31
5	管理計画	31
第8節	干拓計画	31
第9節	農用地整備計画	32
1	区画整理	32
2	暗渠排水	33
3	客土	33
4	農地保全	33
第10節	老朽ため池改修計画	33
1	洪水吐改修計画	33
2	堤体補強計画	33
3	取水施設改修計画	33
第5章	主要工事計画	34
第1節	用水施設	34
1	貯水池	34
2	頭首工	34
3	揚水機	34
4	用水路	34
5	その他かんがい施設	34

第2節	排水施設	35
1	排水水門	35
2	排水機	35
3	排水路	35
4	その他排水施設	35
第3節	道路及び索道	36
1	道路	36
2	索道	36
第4節	農用地造成	37
1	農用地造成	37
2	土壌改良	37
第5節	洪水調節施設	37
1	貯水池	37
2	頭首工及び導水施設	37
第6節	干拓施設	37
1	堤防	37
2	潮止め	37
3	付属施設	37
4	埋立	37
第7節	農用地整備施設	38
1	区画整理	38
2	暗渠排水	39
3	客土	39
4	除礫	39
5	農地保全	39
第8節	老朽ため池改修施設	40
1	貯水池	40
2	堤体補強施設	40
第6章	附帯工事計画	41
第7章	工事の着手及び完了の予定時期	41
第8章	環境との調和への配慮	41
第9章	換地計画の概要	42
第10章	事業費の総額及び内訳	49
第11章	効用	50
第12章	関連する事業	51
第13章	現況・計画図面	51

第1章 目 的

本地区は岡山県新見市の東部に位置し、中央部を県道58号北房川上線と一級河川小坂部川が縦断しており、河川及び県道より東側の平坦地である。地区標高は304～311m程度であり、平均地形勾配は1/127程度(1/60～1/362)である。

地区の中央部を市道政末線及び定光線が東西に通っている。現況の耕地状況としては一筆が1～20a程度の小区画水田が大半を占めている。しかも不整形で道路から直接進入できない箇所もあり、経営条件向上の障害要因となっているため、本事業では経営体育成を目標とした農地整備を行う区画は畑の大区画化を目指し、農道設置(W = 4.0m)及び用排水路整備を行い、農地の汎用化を図ると共に生産労働条件、経営条件等の向上を目指すこととする。

第2章 地域及び地積

第1節 地 域

(第1表)

事 業 名	地 域
農地中間管理機構関連農地整備事業（一般型）	岡山県新見市大佐布瀬

第2節 地 積

(第2表)

事 業 名	現況地目	田 (ha)	畑 (ha)	原 野 (ha)	山 林 (ha)	そ の 他 (ha)	計 (ha)	備 考
	市町村名							
農地中間管理機構関連農地整備事業(一般型)	新 見 市	6.9 7.0	0.2 0.3			1.1	8.2 8.4	
計		6.9 7.0	0.2 0.3			1.1	8.2 8.4	

第3章 現 況

第1節 気象及び海象

1. 一 般 気 象

(第3表-1)

観測所名	下皆部観測所	かんがい期	非かんがい期	計	備 考
観測期間	平成15年 ～令和4年	4月20日 ～8月31日	9月1日 ～4月19日	又は平均	
平 均 気 温 (°C)		－	－	－	気象庁ホームページより
降 水 量	平 均 (mm)	750.0	655.0	1,405.0	
	基準年 (mm)	435.0	546.0	981.0	H17
降水日数	平 均 (日)	51	74.2	125.2	
	基準年 (日)	31	58	89.0	H17
根 雪 期 間		－			
無 霜 期 間		－			
最 多 風 向		－	最大風速	－	最多風向発生時期 月～ 月

2. 特 殊 気 象

(第3表-2)

観 測 所 名	第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位			第 5 位		
下皆部観測所	数 量	年 月 日	発 生 確 率	数 量	年 月 日	発 生 確 率	数 量	年 月 日	発 生 確 率	数 量	年 月 日	発 生 確 率	数 量	年 月 日	発 生 確 率
観 測 期 間															
昭和51年～ 平成26年															
最大日雨量 (mm)	247.5	S9.9.20	－	239.0	S47.7.11	－	185.0	H30.7.6	－	183.0	H23.9.3	－	154.0	S63.6.24	－
最大時間雨量 (mm)	67.0	S57.8.7	－	57.5	R2.9.4	－	57.0	H18.8.28	－	57.0	H22.8.22	－	56.0	H13.7.15	－
最大4時間雨量 (mm)															
最大連続雨量 (mm)															
最大連続干天日数 (日)															

3. 海 象

該当なし

第2節 土 地 状 況

1. 地形、土壌及び侵食の程度

(第4表-1-1)

事業名	地 目	田						畑・その他								受益地標高 (m)		備 考
	傾 斜	1/1000	1/1000	1/300	1/100	1/15		3°	3°	8°～15°			15°	20°		最高	最低	
	区 分	以上	1/300	1/100	1/15	以下	計	以下	8°	8° ～	10° ～	8° ～	15° ～	20° 以上	計			
農地中間 管理機構 事業	面 積 (ha)			6.9 7.0			6.9 7.0	0.2 0.3							0.2 0.3	311.3	304	
	比 率 (%)			100			100	100							100			

(第4表-1-2)

項 目 土 壤 統 区 名	土 壤 統 区 区 分 一 覧 表										面 積 (ha)			備 考
	土 壤 断 面								堆積様式	母 材				
	色	腐植	礫層	酸化 沈澱物	土 性			泥炭層黒泥層 及びグライ層						
					表層	下 層 土								
					一 層	二 層	三 層							
褐色森林土壌 F52	褐色	なし	なし	なし	L	SL	SL	—			ほ場整備 7.1 7.3		計 7.1 7.3	
計											7.1 7.3		7.1 7.3	

(第4表-1-3)

事業名	区 分	土 壤 の 流 亡 率				年 平 均 流 亡 速 度				ガリ侵食の程度		備 考
		0	0～25%	25～50%	50%以上	0	3mm未満	3～5mm	5mm以上	中程度 のもの	大なる もの	
	面 積 (ha)											
	比 率 (%)											

2. 土地分類 該当なし

3. 土地利用の状況

(第4表-3)

事業名	土地利用別 市町村別	耕 地						山 林		採草放牧地 (ha)	原野 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備 考
		水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	茶園 (ha)	樹そ園の地他 (ha)	用材林 (ha)	薪炭林 (ha)					
	新見市	6.9 7.0	0.2 0.3									1.1	8.2 8.4	
農地 連農中 地間 整管 備理 事機 業構														
	合 計	6.9 7.0	0.2 0.3									1.1	8.2 8.4	

4. 土地所有の状況

(第4表-4)

事業名	所有別 区 分						計	備 考
		個人有	法人	市町村有	国有			
農地 連農中 地間 整管 備理 事機 業構	面 積 (ha)	8.2 7.3		0.0 1.1			8.2 8.4	
	受益者数 (戸)	31.0					31.0	
	筆 数 (筆)	83.0 95.0		0.0 59.0			83.0 154.0	
	権 利 関 係 備 考 (関係戸数)	所有権、耕作権		所有権				
	面 積 (ha)							
	受益者数 (戸)							
	筆 数 (筆)							
	権 利 関 係 備 考 (関係戸数)							
合 計	面 積 (ha)	8.2 7.3		0.0 1.1			8.2 8.4	
	受益者数 (戸)	31.0					31.0	
	筆 数 (筆)	83.0 95.0		0.0 59.0			83.0 154.0	
	権 利 関 係 備 考 (関係戸数)	所有権、耕作権		所有権				

第3節 水 利 状 況

1. 用水状況

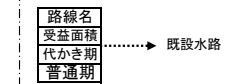
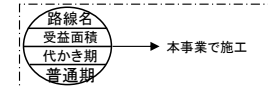
本地区の用水系統は、一級河川小坂部川の頭首工から取水している。

(1) 用水系統

現況用水系統模式図(次頁参照)

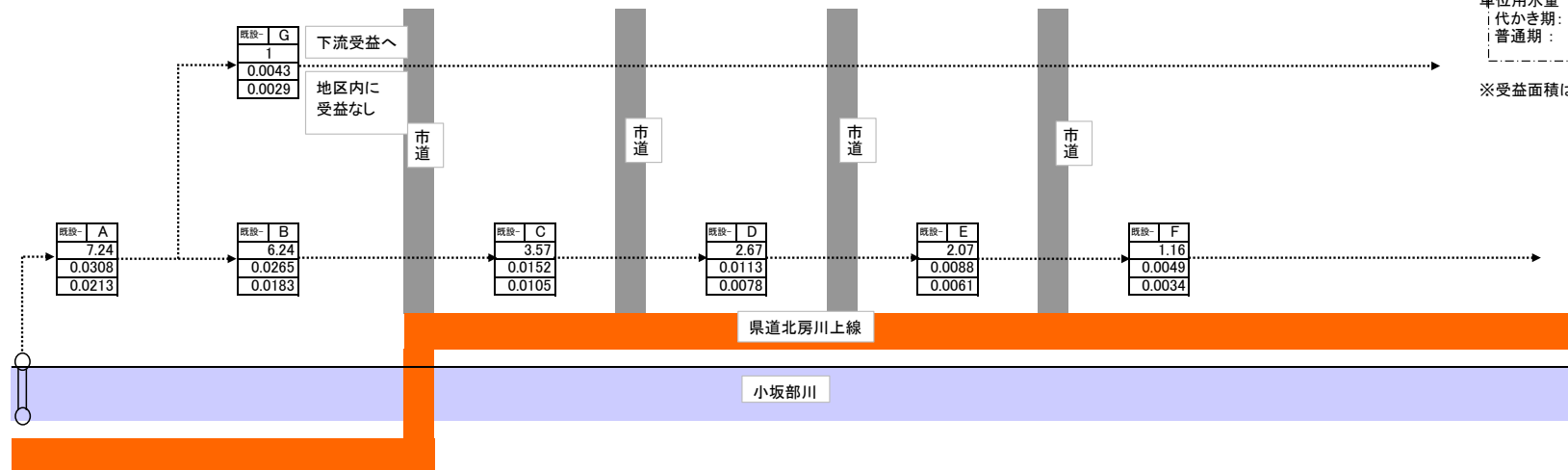
現況用水系統図

計画区域



単位用水量
 代かき期: 0.00425 $\text{m}^3/\text{s}/\text{ha}$
 普通期: 0.00294 $\text{m}^3/\text{s}/\text{ha}$

※受益面積は本地面積(ha)



(2) 用水施設

(ア) 取水方法一覧表

(第5表-1)

事業名	項目 施設名	かんがい面積						計		水利権		慣行水利権		延べ 取水量	備考
		100ha以上		50～100ha		50ha以下									
		個所	ha	個所	ha	個所	ha	個所	ha	個所	m ³ /S	個所	m ³ /S	m ³ /S	
農地中間 整備 備 事業 機 構 関 連 農	貯水池														
	井堰					1	7.1 7.3	1	7.1 7.3			1	0.1		
	自然取入口														
	揚水機														
	その他														
	計					1	7.1 7.3	1	7.1 7.3			1	0.1		
合計						1	7.1 7.3	1	7.1 7.3			1	0.1		

(イ) 改修を要する施設一覧表

(第5表-2)

事業名	項目 施設名	施設名又は 箇所数 (箇所)	受益面積 (ha)	構造	規模	新設年又は更新年	改修を必要とする理由	備考
農地 農中 間 整 備 事 業 構 関 連	貯水池							
	井堰							
	自然取入口							
	揚水機							
	用水路		7.1 7.3	コンクリート水路		不明	水管理の合理化を図る上で区画整理と共に一体的に改修を行う。	
	その他							
	計		7.1 7.3					
合計			7.1 7.3					

(3) 用水に関する被害状況

(ア) 用水不足による被害状況 該当なし

(イ) その他の被害状況 該当なし

(4) ため池決壊の場合の想定被害状況

該当なし

2. 排水状況

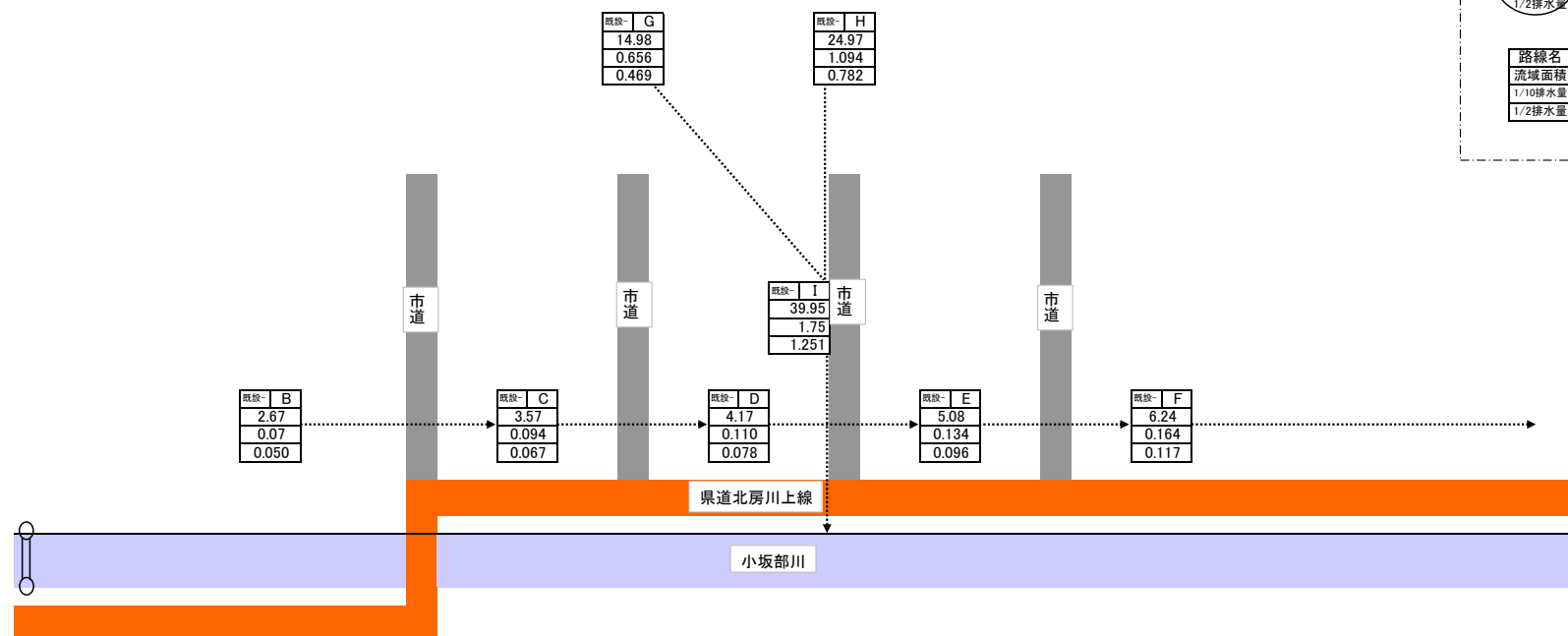
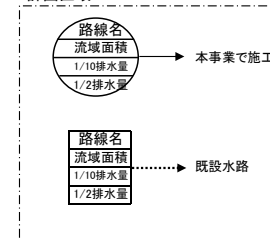
本地区は、一級河川小坂部川を排水本線として自然排水を行っている。地区内を流下する排水路は用排兼用水路であることに加え、老朽化が進んでおり、水管理において過剰な労働力を費やしている。

(1)排水系統

現況排水系統模式図(次頁参照)

現況排水系統図

計画区域



(2) 排水施設

(ア)排水方法一覧表

(第5表-4)

事業名	項目		排水面積						計		排水慣行	現況排水能力		備考
			500ha以上		500～100ha		100ha以下							
	施設名		個所	ha	個所	ha	個所	ha	個所	ha				
関農 連地 農中 地間 整管 備理 事業 機構	自然	排水路						67.42		67.42		—		
		水門												
	機械	排水機												
		水門及び排水機												
		排水路及び排水機												
	計							67.42		67.42				
	合計							67.42		67.42				

(イ)改修を要する施設一覧表

(第5表-5)

事業名	項目		施設名又は箇所数	受益面積 (ha)	構造	規模	新設年又は更新年	改修を必要とする理由	備考
農地 農中 地間 整管 備理 事業 機構 関連	自然	排水路		7.1 7.3	コンクリート二次製品	角フリューム500程度	不明	区画整理と共に一体的に改修を行う。	
		水門							
	機械	排水機							
		水門及び排水機							
		排水路及び排水機							
	計			7.1 7.3					
	合計			7.1 7.3					

(3) 排水に関する被害状況

該当なし

3. 河川状況

(1) 河川状況

(第5表-7)

項 目 河 川 名	流 路 状 況	勾 配	断 面	計 画 洪 水 量 (m^3/s)	既往最大洪水量 (m^3/s)	備 考
小 坂 部 川	良					

(2) 洪水に関する被害状況

該当なし

第4節 道路概況

1. 道路概況

地区内の道路は市道及び農道で構成されている。しかし幅員が狭小であり現況施設では大型機械化営農に支障を来たすため改修を必要とする。

2. 主要道路一覽表

(第6表)

[illegible]

第5節 地域農業の概況

1. 産業別就業人口

(H22調査(新見市HP)) (第7表－1)

項 目 市町村名	総 数 (人)	農 業 ・ 林 業 (人)	(人)	漁 業 (人)	鉱 業 (人)	建 設 業 (人)	製 造 業 (人)	供 電 給 水 道 業 熱 業 (人)	運 輸 通 信 業 (人)	卸 売 飲 食 店 小 売 業 (人)	金 融 保 険 業 (人)	不 動 産 業 (人)	サ ー ビ ス 業 (人)	公 務 員 (人)	そ の 他 (人)	備 考
新見市	15,475	2,276		6	108	1,400	2,757	27	854	1,903	179	38	4,800	620	507	
計	15,475	2,276	0	6	108	1,400	2,757	27	854	1,903	179	38	4,800	620	507	
比 率 (%)	100%	14.7%	0.0%	0.0%	0.7%	9.0%	17.8%	0.2%	5.5%	12.3%	1.2%	0.2%	31.0%	4.0%	3.3%	

2. 経営耕地広狭別農家数及び耕地の分散状況並びに主副業別農家数

(2020年世界農林業センサス) (第7表－2)

区 分 市町村名	農 家 総 戸 数 (戸)	経営農地広狭別農家数(戸)									1戸当たり平均農用地面積(ha)						耕地の分散状況		主副業別経営体数			備 考
		例外規定の適用を受けるもの	ha 0.3 ～ 0.5	ha 0.5 ～ 1.0	ha 1.0 ～ 1.5	ha 1.5 ～ 2.0	ha 2.0 ～ 3.0	ha 3.0 ～ 5.0	ha 5.0 以上	自給的農家	田	畑	樹園地	小計	その他	計	1戸当 団地数	団地当 面積 ha	主業	準主業	副業	
新見市	1,590	94	515	631	184	76	37	25	28		1.24	0.17	0.34	1.75		1.75	－	－	152	167	1,271	
計	1,590	94	515	631	184	76	37	25	28	0	1.24	0.17	0.34	1.75		1.75	－	－	152	167	1,271	
比 率 (%)	100%	5.9%	32.4%	39.7%	11.6%	4.8%	2.3%	1.6%	1.8%	0.0%	71%	10%	19%	100%		100%	－	－	10%	11%	80%	

3. 動力農機具及び主要家畜頭数

(2015年世界農林業センサス) (第7表-3)

項 目 市町村名	動力農機具								主要家畜								備 考
	トラクター		田植機		コンバイン				乳用牛		肉用牛		豚		にわとり		
	数量 (台)	戸数 (戸)	数量 (台)	戸数 (戸)	数量 (台)	戸数 (戸)	数量 (台)	戸数 (戸)	頭数 (頭)	戸数 (戸)	頭数 (頭)	戸数 (戸)	頭数 (頭)	戸数 (戸)	羽 (百羽)	戸数 (戸)	
新見市	1,476	1,274	1,182	1,133	1,062	1,006											
合計	1,476	1,274	1,182	1,133	1,062	1,006											
100戸当たり数量 (台, 頭)	116		104		106												
利用戸数割合 (%)	159%		142%		126%												

4. 主要作物作付状況

(2015年世界農林業センサス) (第7表-4)

市町村名	新見市						計	平 均	作 付 率 (%)	備 考
総耕地面積(ha)	1,960						1,960			
総本地面積(ha)	1,790						1,790			
区 分 作物名	作付面積 ha	単位面積当たり 収穫 kg/10a	作付面積 ha	単位面積当たり 収穫 kg/10a	作付面積 ha	単位面積当たり 収穫 kg/10a	作付面積 (ha)	単位面積当たり 収穫 (kg/10a)	作 付 率 (%)	備 考
水稲	1,020	505					1,020			
大豆	120	131					120		6%	
野菜類	28						28		1%	
果樹類	706						706		38%	
計	1,874						1,874			
市町村別作付率 (%)	95.6%									

5. 農業の動向

A=2020年農業センサス B=2015年農業センサス (第7表-5)

項 目 区 分	農 家			土 地			主 要 作 物			大 家 畜			動力農機具			地域指定等	備考
	種 別	B	A	地 目	B	A	作物名	B	A	種 別	B	A	種 別	B	A		
変 化 の 状 況 C 年 を 100 と す る 指 数	総農家数	1476.0	1221.0	耕地	2602.0	2334.0	水 稻	1300	1020.0				トラクター	1476.0	—	農業振興地域	
	主 業 農家数	180.0	152.0	田	2130	1381	大豆	92	120				田植機	1182.0	—		
	準主業 農家数	247.0	167.0	畑	472	551	野菜	78	28				コンバイン	1062.0	—		
	副業的 農家数	1049.0	902.0	樹園地		402											
	基幹的農業 従事者数	1015	845														
変 化 の 理 由	小規模農家の農業離れが進み農家減少につながっている。反面、農用地利用増進等により専業志向による経営規模の拡大が図られている。			耕地が、宅地・道路等に転用されて減になったためと考えられる。			小規模農家の農業離れが進み作付面積減少につながっている。						2020年データなし				

第6節 地域環境の概況

本地域は岡山県の西北端で北緯35度5分、東経133度32分に位置し東部は真庭郡、西部及び南部は旧新見市、北は中国山地を経て鳥取県日野郡日南町に隣接している。町域は東西6.62km、南北22.07km、総面積121.25km²である。国の広域市町村圏計画による指定圏は、新見市と阿哲郡4町で構成される阿新広域圏に属し中心である新見市の中心部との距離は約17km県内の主要都市岡山市、倉敷市とはおおそ80～100km、津山市とは50kmの距離である。

人口は、令和5年11月末現在2,493人、世帯数1,163世帯で、地域については人口201人、世帯数100世帯であり、人口減少傾向と高齢化が進んでおり、また産業構造は第1次産業15.5%、第2次産業26.9%、第3次産業57.5%となっている。

第4章 一 般 計 画

第1節 事業計画の要旨

1. 要 旨

本地区は岡山県新見市の東部に位置し、地区を縦断する小坂部川及び県道北房川上線沿いに平坦地がありその東側も西側も山地となる。地区標高は304～311m程度であり平均地形勾配は1/127程度(1/60～1/362)である。

地区の北部を農道が南北方向と東西方向に通っており、中央部に指導の政末線が東西方向に、市道定光線が東西及び南北方向に通っている。現況の耕地状況としては一筆が1～10a程度の小区画水田が大半を占めている。しかも不整形で道路から直接進入できない箇所もあり、経営条件向上の障害要因となっているため、本事業では経営体育成を目標とした農地整備を行う区画は中区画(30～50a)とし、農道設置(W = 4.0m)及び用排水路整備を行い、農地の汎用化を図ると共に生産労働条件、経営条件等の向上を目指すこととする。

2. 事業別面積

(第8表)

事業名 土地利用区分 事業目的	農地中間管理機構関連農地整備事業(一般型)																	
	水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草地 (ha)	果樹園 (ha)	その他 (ha)	小 計 (ha)	水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草地 (ha)	果樹園 (ha)	その他 (ha)	小 計 (ha)	水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草地 (ha)	果樹園 (ha)	その他 (ha)	小 計 (ha)
区画整理		6.3 6.5			1.9	8.2 8.4												

第2節 営農計画及び土地利用計画

1. 営農計画の概要

当該地区は、小坂部川に沿った狭小な谷の農地によって構成されている。また、狭小かつ不整形な農地のため、営農や転作の集団化が困難で生産効率も低く、農業者の高齢化や後継者不足が進行し、耕作放棄地も増加している。

今後は高齢化の進展と一層の兼業化により担い手不足や農地の荒廃化が進み一体的な農業生産ができなくなることから、地域の担い手を育成し、作業受委託や農地の利用権設定による集積を促進して農地の有効利用を図る。また、ほ場整備による農地の大区画化や用排水施設の整備を行い、地域の担い手に農地集積を促進して、農業機械の大型化や共同利用により農業生産経営の効率化を図り、野菜の生産を行う。

2. 土地利用区分

(第9表－1)

事業名	地 目	水田 ha	普通畑 ha	牧草畑 ha	果樹園 ha	茶園 ha	その他 ha	小計 ha	原野 ha	山林 ha	その他 ha	計 ha	備考
	区 分												
農地中間管理機構関連農地整備事業	現 況	6.9 7.0	0.2 0.3					7.1 7.3			1.1	8.2 8.4	
	計 画		6.3 6.5					6.3 6.5			1.9	8.2 8.4	
計	現 況	6.9 7.0	0.2 0.3					7.1 7.3			1.1	8.2 8.4	
	計 画		6.3 6.5					6.3 6.5			1.9	8.2 8.4	

3. 作付方式

(第9表-2)

事業名	項目	月	土地利用区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	備考
		経営類型														
農地中間管理機構関連農地整備事業（一般型）	現況	水稻	田					○—	○△ △				××			○:播種 △:移植 ×:収穫
	計画	キャベツ	畑								○—△			×	×	○:播種 △:移植 ×:収穫

4. 生産計画

(第9表-3)

[illegible]

5. 労働改善計画

(第9表-4)

事業名	項目	作物名	作付面積 (ha)	単位面積当の労働投下量 (hr/10a)				備 考
	土地利用区分			区分	現況	計画	増減	
農地中間管理機構関連農地整備事業（一般型）	畑	水 稲		人力	27.2		△ 27.2	
				機械	15.7		△ 15.7	
		キ ャ ベ ツ	5.7 5.9	人力		59.0	59.0	
				機械		12.1	12.1	
				人力				
				機械				
				人力				
				機械				
				人力				
				機械				
				人力				
				機械				
				人力				
				機械				
		計			42.9	71.1	28.2	
		合計			42.9	71.1	28.2	

6. 級地別土地利用区分

該当なし

7. 土地配分計画

該当なし

第3節 用水計画

1. 計画基準年

水文・気象調査結果に基づいて、かんがい期間(6月～9月)の降雨量、有効雨量、連続干天日数、総干天日数について岩井法により確率計算を行い、1/10確率計算値を求め、用水計画の計画基準年を決定する。

用水および水源計画に関連の大きい降水量、干天日数等は20ヶ年以上のデータが望ましいとされることから(土地改良事業計画設計基準 計画「農業用水(水田)」p.25)、確率処理はおおむね最近20年以上のデータで検討するものとし、決定された計画基準年が、かんがい期間中の有効雨量、連続干天日数及び河川流況等の気象、水象要件からみても異常年でないことを確認しておく必要がある。

確率処理を行うデータは、かんがい期間中の降雨量、有効雨量、連続干天日数、総干天日数とし、処理期間は平成15年(2003)～令和4年(2022)までの20年間とする。

検討の結果、各諸元が1/10年確率に最も近い平成17年(2005年)を計画基準年とする。

2. 計画かんがい方式

(1)かんがい方式

取水方式は頭首工での取水となり、地区までは開水路となる。地区の最上流にポンプを設置し地区内の畑へのかんがいはパイプラインでの供給となる。地区より下流へは開水路による供給となる。

(2)かんがい期間

区 分	作 物	代かき期		生育期		備 考
		期 間	日 数	期 間	日 数	
水 田	水 稻	4月20日～4月30日	11日	5月1日～8月30日	123日	
畑	野菜他			8月1日～10月31日	92日	

3. 計画用水系統

別添計画用水系統模式図(次頁参照)

計画用水系統図

計画区域

路線名
受益面積
代かき期
普通期

→ 本事業で施工

路線名
受益面積
代かき期
普通期

→ 既設水路

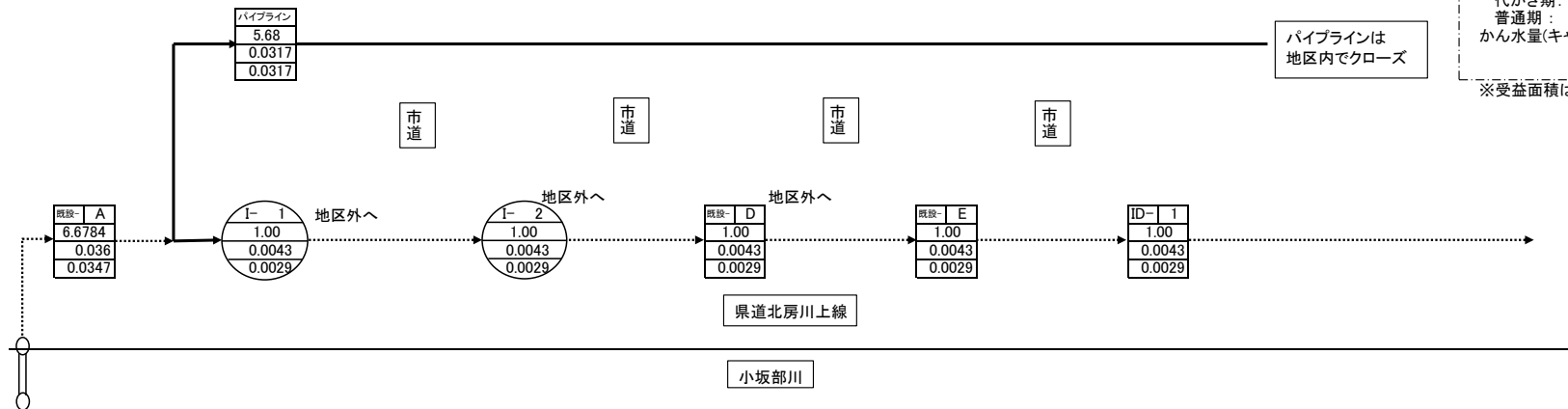
単位用水量(水稻)

代かき期: 0.00425 m³/s/ha

普通期: 0.00294 m³/s/ha

かん水量(キャベツ)
0.00559 m³/s/ha

※受益面積は本地面積(ha)



4. 計画用水量

(1)かんがい用水

(第10表-1-1)

項目 系統名	種別	面積 ha	水田かんがい			水田畑利用			畑地かんがい			その他		消費水量 m ³ /s	損失率 %	粗用水量		備考
			普通期	代掻期	面積 ha	1日当たり計画平均かん水深	平均間断日数	面積	1日当たり計画平均かん水深	平均間断日数	面積	計画平均単位用水量	面積			平均	最大	
			mm/day	mm		mm/day	日	ha	mm/day	日	ha	mm/day	ha			m ³ /s	m ³ /s	
大佐布瀬	農業用水	6.3 6.5							4	5	6.3 6.5	-	-	0.022	5	0.023	-	

(2)営農飲雑用水

該当なし

5. 水源計画

(1) 水利用計画

(第10表-2-1)

項目 区分	消費水量 a (千 ³ m)	有効雨量 b (千 ³ m)	純用水量 c=a-b (千 ³ m)	粗用水量 d=c/(1-α) (千 ³ m)	現況利用可能水量			不足量		水源依存量		水源 工種	備考 損失率=α
					水源名	取水地点 利用可能量 e (千 ³ m)	ほ場利用 可能量 f (千 ³ m)	純不足量 g=c-(e+f) (千 ³ m)	全不足水量 h=g/(1-α) (千 ³ m)	水源名	水量 (千 ³ m)		
大佐布瀬	156	16	140	165	小坂部川	196	-	-	-	-	-	-	15%

(2) 用水対策

(ア) 貯水池 該当なし

(イ) 井堰及び自然取入口 該当なし

(ウ) 揚水機 該当なし

(第10表-5)

項目 名称	位 置	揚水量 (m^3/s)	揚程 (m)		揚水機			原動機			備 考
			全揚程	実揚程	型式	口径 (mm)	台数 (台)	型式	動力 (Kw)	台数 (台)	
ポンプ場	1号畑北側	0.015	20.4	5.4	水中	65	2	電動モータ	3.7	2	

(エ) 用水路

(第10表-6)

番号	項目 名称	かんがい面積(ha)			最大通水量 (m³/s)	延長 (km)	構 造	備 考
		事業名						
		ほ場整備		計				
	支線用水路	6.3 6.5		6.3 6.5	-	1.66 1.51	角フリューム400型,塩化ビニル管 φ 100	

第4節 排水計画

1. 計画基準雨量

133.1mm/day (1/10年確率) 岡山県の特異気象(簡易版)令和5年3月下旬部
20.6mm/hr (1/10年確率) 4時間雨量4時間排除

2. 計画排水方式

自然流下方式

3. 計画排水系統

別添計画排水系統模式図(次頁参照)

4. 計画排水量

(第11表-1)

地目 排水系統名	受益面積 (ha)			流域面積 (km ²)		基準雨量 (mm)	降雨による直接単位流出量 (m ³ /s/km ²)		基底流出量 (m ³ /s/km ²)		全排水量 (m ³ /s)			単位排水量 (m ³ /s/km ²)		備考
	事業名			山地	平地		山地	平地	山地	平地	山地	平地		山地	平地	
	ほ場整備		計									自然排水	機械排水			
小坂部川	8.2 8.4		8.2 8.4	0.578	0.096	20.6	4.380	3.940	—	—	2.532	0.378		4.380	3.940	
計	8.2 8.4		8.2 8.4	0.578	0.096						2.532	0.378				

5. 排水対策

(1)排水水門 該当なし

計画区域



▶ 本事業で施工



▶ 既設水路

(2) 排水機 該当なし

(3) 排水路

(第11表-4)

（第11表）4

項目 名称	流域面積 (km ²)	受益面積 (ha)			計画排水量 (m ³ /s)	延 長 (km)	構 造	排水本川			備 考
		事業名						名称	計画洪水量 (m ³ /s)	計画洪水位 (m)	
		ほ場整備		計							
支線排水路	0.674	6.3 6.5		6.3 6.5	0.462～2.22	1.200 1.280	角フリューム500	小坂部川			

6. 湛水検討 該当なし

第5節 道路計画

1. 道路及び索道

(1) 道路

(第12表－1)

路線名	項目	幅(m) (有効)	×	延長(km)	構 造	既設道路との関係	備 考
支線農道		4.0(3.0)	×	0.17	As舗装	現道利用	
〃		4.0(3.0)	×	0.94	砂利道	新設	
計				1.15 1.11			

2. 路線配置図

計画平面図参照

第6節 農用地造成計画

- | | |
|------------|------|
| 1. 農用地造成計画 | 該当なし |
| 2. 土壌改良 | 該当なし |

第7節 洪水調節計画

- | | |
|---------------|------|
| 1. 計画基準雨量 | 該当なし |
| 2. 計画洪水量及び調節量 | 該当なし |
| 3. 貯 水 池 | 該当なし |
| 4. 洪水調節検討 | 該当なし |
| 5. 管理計画 | 該当なし |

第8節 干拓計画

該当なし

第9節 農用地整備計画

1. 区画整理

(1) 区画の形状

(第16表-1)

長辺 × 短辺 (m)	区画面積 (ha)	全体面積 (ha)	割 合 (%)	田面差 (m)	備 考
300×100 330×100	2.7	2.7	43 42		
140×60 150×60	0.9 0.7	0.9 0.7	14 11		
120×30	0.5 0.4	0.5 0.4	8 6		
50×20 60×20	0.1	0.1	2		
130×60 180×80	0.9 1.2	0.9 1.2	14 18		
- 50×40	0.0 0.2	0.0 0.2	0 3		
130×60 190×80	1	1	16 15		
50×40	0.2	0.2	3		
計		6.3 6.5	100		

(2) 表土扱い

(第16表-2)

面積 (ha)	表土扱い要否の理由	扱い深 (cm)	土量 (m ³)	備 考
6.3 6.5	地力保全	15	9,450 9,750	

2. 暗 渠 排 水

(第16表－3)

項 目 区 分	面 積 (ha)			土 壤 統 (区) 名	基準雨量 (mm/day)	単位排水量 (l/s/ha)	計画後の地下水 位 (m)	集水渠出口以下 の排水方法	備 考
	事業名								
	ほ壤整備		計						
暗渠排水	6.3 6.5		6.3 6.5	褐色森林土壌	－	3.47	0.5		
計									

3. 客 土 該当なし

4. 農 地 保 全 該当なし

第10節 老朽ため池改修計画

1. 洪水吐改修計画 該当なし

2. 堤体補強計画 該当なし

3. 取水施設改修計画 該当なし

第5章 主要工事計画

第1節 用水施設

1. 貯 水 池 該当なし
2. 頭 首 工 該当なし
3. 揚 水 機 該当なし

(第17表-3)

項目 名称	位 置	揚水量 (m^3/s)	揚程 (m)		揚水機			原動機			備 考
			全揚程	実揚程	型式	口径 (mm)	台数 (台)	型式	動力 (Kw)	台数 (台)	
ポンプ場	1号畑北側	0.015	20.4	5.4	水中	65	2	電動モータ	3.7	2	

4. 用水路

(第17表-4)

番号	項目 名称	かんがい面積(ha)			通水量 (m ³ /s)	延長(km)			構 造	勾配	主要構造物	備 考
		事業名				開きよ	トンネル その他	計				
		ほ場 整備		計								
	支線用水路	6.3 6.5	0	6.3 6.5	-	0.55 0.40	1.11	1.66 1.51	角フリューム400型,塩化ビニル管 φ 100	1/100～1/300		

5. その他かんがい施設 該当なし

第2節 排水施設

1. 排水水門 該当なし

2. 排水機 該当なし

3. 排水路

(第18表-1)

番号	水路名	項目			排水量 (m ³ /s)	延 長 (km)			構 造	勾 配	主要構造物	備 考
		受益面積(ha)				開きよ	トンネル その他	計				
		事業名		計								
		ほ場整備		計								
	支線排水路	6.3 6.5		6.3 6.5	0.462～2.22	1.20 1.28		1.20 1.28	角フリューム500	1/100～1/200		
計		6.3 6.5		6.3 6.5	0.462～2.22	1.20 1.28	0.00	1.20 1.28				

4. その他排水施設 該当なし

第3節 道路及び索道

1. 道路

(1)道路の総括表

(第19表－1)

項目 区分	路 線 名	幅 (有効)	×	延長 (km)	構 造	付帯構造物			最急勾配	同左の延長	最小曲線 半径	備 考
						名称	構造	数量				
	支線農道	4.0	(3.0)	× 0.17	As舗装				12%			
	〃	4.0	(3.0)	× 0.94	砂利道				12%			
	計			1.15 1.11								

(2)道路主要構造物 該当なし

2. 索 道 該当なし

第4節 農用地造成

- | | |
|----------|------|
| 1. 農用地造成 | 該当なし |
| 2. 土壌改良 | 該当なし |

第5節 洪水調節施設

- | | |
|-------------|------|
| 1. 貯水池 | 該当なし |
| 2. 頭首工及び導水路 | 該当なし |

第6節 干拓施設

- | | |
|---------|------|
| 1. 堤防 | 該当なし |
| 2. 潮止め | 該当なし |
| 3. 附属施設 | 該当なし |
| 4. 埋立 | 該当なし |

第7節 農用地整備施設

1. 区画整理

(1) 区画整理

(第23表-1)

田番号	面積(ha)	整地工		表土扱い		備 考
		標準区画	土量(m ³)	面積(ha)	土量(m ³)	
①	2.7		—	2.7	4,050	
②	0.9 0.7		—	0.9 0.7	1,350 1,050	
③-1	0.5 0.4		—	0.5 0.4	750 600	
③-2	0.1		—	0.1	150	
④	0.9 1.2		—	0.9 1.2	1,350 1,800	
⑤-1	0.0 0.2		—	0.0 0.2	0 300	
⑤-2	1.0		—	1.0	1,500	
⑥	0.2		—	0.2	300	
計	6.3 6.5			6.3 6.5	9,450 9,750	

(2) 末端用水路等 該当なし

(第23表-2)

(3) 末端排水路等 該当なし

(第23表-3)

2. 暗 渠 排 水

(1)暗渠排水

(第23表-4-1)

項目 区分	面 積 (ha)			集 水 渠				吸 水 渠					集水渠出口以下の排水施設			備 考
	事業名			勾配	管種	管径 (mm)	延長 (m/ha)	勾配	管種	管径 (mm)	間 隔 (m)	延 長 (m/ha)	名 称	構 造	数 量	
暗渠排水	6.3 6.5		6.3 6.5	1/100～ 1/1000	ポリエチ レン管 塩ビ	60～ 75	143	1/100～ 1/1000	ポリエチ レン管	60	10	508				

(2)心土破碎 該当なし

3. 客 土 該当なし

4. 除 礫 該当なし

5. 農 地 保 全 該当なし

第8節 老朽ため池改修施設

1. 貯 水 池 該当なし
2. 堤体補強施設 該当なし
 - (1) 法面保護施設
 - (2) 漏水防止工

第6章 附帯工事計画

該当なし

第7章 工事着手及び完了の予定時期

工事着手	令和7年4月
工事完了予定	令和12年3月

第8章 環境との調和への配慮

1 基本方針

地域の自然、歴史、文化、更には地域住民の心が反映された美しい景観作りに取り組む。市民総ぐるみの緑化運動を展開し、みどりと花に包まれた美しいまちづくりを推進し、治山治水事業については適切に工事を実施していき、自然災害のないまちを目指していく。

具体的な自然環境の保護としては自然・まちなみ等の景観に配慮して実施していき、地域に対する愛着心や誇りを育てていく。特に優れた景観を有する地域においては住民の理解を得ながら地域指定を行うなど、積極的な景観保全に取り組んでいく。

2 当該地域の生態系の現況

新見市の植物の分布は、土質、機構、標高などの自然環境により、種類が異なり土地に適応した植物相が見られる。北部山地は大半がスギ・ヒノキの人工林で、ミズナラ・コナラ・クリなどの落葉広葉樹の二次林が合間をぬってあり、ススキ・ササ類が繁殖している。自然植生は局地的にわずかしか残されていない。

大佐地域では大佐山周辺にアテツマンサク、上刑部や大井野の溪谷にはタムシバ、シャクナゲが見られる。
動物については小坂部川にはホタル、ヤマメ、大佐山付近には天然記念物のアオモリガエルが確認されている。

3 当該地区における環境配慮の方法

＜施工上の配慮＞

- ・工事車両の通行において、騒音・振動等を極力抑え周辺環境等に配慮する。
- ・工事中における水質汚濁等による下流水路等への影響を最小限にする。
- ・工事実施に際して、希少な動植物や配慮すべき動植物等が発見された場合は、市環境課・有識者と対応について協議する。

第9章 換地計画の概要

第1節 換地計画を作成する上での基本的な考え方

現況は、農地の区画形状が不整形で分散しており、道水路等も未整備のため効率的な営農が困難な状況にある。このため、区画整理を行って農地の大区画化と集団化、また道路用排水路を整備し、施設機械の有効利用の向上を図ると同時に、育成すべき農業経営者への利用集積を図り、農業経営の安定、向上を促進できるよう換地計画を作成する。

第2節 換地区の設定

1. 換地区の名称、所在、面積

(第25表 - 1)

換地区名	換地区の所在	面積(ha)
大佐布瀬	岡山県新見市大佐布瀬	8.2 8.4

2. 換地区を設定する理由

該当なし

第3節 換地計画樹立の基本方針

1. 従前の土地の地積の基準

換地区名	地積の基準
大佐布瀬	換地交付の基準とする従前地の地積は、土地改良事業計画決定の日の登記簿地積とする。ただし、土地改良事業計画決定の日から3ヶ月以内に測量士、測量士補または土地家屋調査士の測量した実測図及び近隣所有者の同意書を添付して申し出のあった場合には、その申し出のあった地積とする。

2. 用途別予定地積一覧

(単位:ha)

用途 (取得 予定者)		非農用地区域外に換地する土地												非農用地区域に換地する土地								機能交換による土地				一般 国 公 用 地	総合計			
		田	畑	山林・ 原野	そ の 他	通常事業施行区域 に含める土地 (令 第1条の9()書			計	本事業によって 生ずる土地改良 施設用地			創 設 農 用 地	合 計	特定用途用地			異 種 目 換 地	創 設 非 農 用 地				合計	国	県			市 町 村	合 計	
						土地改 良施設	そ の 他	小 計		改 良 区	そ の 他	計			宅 地	そ の 他	計		農 業 経 営 合 理 化 施 設 用 地	生 活 上 経 営 上 必 要 な 施 設 用 地	公 用 公 共 施 設 用 地	計								
換 地 区 名	前後																													
大佐布瀬	従前の土地	6.9 7.0	0.2 0.3						7.1 7.3					7.1 7.3													1.1	1.1		8.2 8.4
	換 地		6.3 6.5						6.3 6.5		0.8	0.8		7.1 7.3													1.1	1.1		8.2 8.4
合計	従前の土地	6.9 7.0	0.2 0.3						7.1 7.3					7.1 7.3													1.1	1.1		8.2 8.4
	換 地		6.3 6.5						6.3 6.5			0.8		7.1 7.3													1.1	1.1		8.2 8.4

3. 農用地集団化の方針

(第25表 - 4)

区分 換地区名	地帯別、グループ別 団地の設定	個人別換地の方法		
		位置の選択方法	1戸当たり目標団地数	区画畦畔の取扱い
大佐布瀬	該当なし	原則として各人の従前の土地が最も密集した位置を中心に集団化するが、育成すべき経営体と一般農家との調整を図り換地する。	2.0	移動畦畔 畦畔は、配分面積に応じて定める。畦畔の設定にあたり、原則として短辺が10m以下となるような設定はしない。

4. 非農用地換地の方法

区分	番号	用 途	非農用地区域の位置の概略	面積 (㎡)	換地の手法	換地取得予定者	その他
全工区							
			該当なし				
計				0			

第4節 土地の評価及び清算の方法

1. 評価の方法

標準地からの増減点方式

2. 清算の方法

比例地積清算方式

第5節 換地計画樹立の年度計画

(第25表 - 6)

区分 換地区名	一時利用地の 指定予定年度	換地計画の 決定予定年度	換 地 処 分 予 定 年 度	備 考
大佐布瀬	令和8～10年度	令和11年度	令和11年度	

第6節 換地処分の特則

換地区については、換地区の全部について区画変更工事が完了し、確定測量が行われたときは、土地改良法第89条の2により準用する同法第54条第2項本文ただし書きの規定に関わらず、換地処分を行うことが出来るものとする。

第7節 換地事務処理体制

換地区	選 定 事 務			処 分 事 務		
	直営・委託の 区 分	担 当 者 (委 託 者)	着手の時期	直営・委託の 区分及び項目	担 当 者 (委 託 者)	着手の時期
全区	委 託 基礎調査 換地設計 計画原案作成 一時利用地の指定	業 者 岡山県土地改良事業団体連合会 新見市 農業畜産振興課 課長 主幹 主任	工事着手	委 託 換地計画書の作成 字界変更 代位登記 処分登記	業 者 岡山県土地改良事業団体連合会 新見市 農業畜産振興課 課長 主幹 主任	工事完了
			令和7年度			令和11年度
			選定事務着手			換地計画樹立
			令和7年度			令和11年度
						換地処分
						令和11年度

換地事務処理体制(機構図)及び処理方針

機 構 図	処 理 方 針
大佐布瀬地区土地改良事業推進協議会 <pre> graph TD A[会長] --- B[換地評価委員会] C[新見市 農業畜産振興課 課長 主幹 主任] </pre>	大佐布瀬地区土地改良事業推進協議会を設置し、新見市との連携を密にし事務推進にあたる。 換地事務関係については、市職員が事業処理にあたり、地元協議会から役員を選出し、事業の推進並びに換地事務運営にあたる。 換地事務処理体制は、左記機構図のとおり、換地事務は基本的には外部委託を考慮しており、関与換地士は、地元の事情に精通した業者を候補として考えている。

第10章 事業費の総額及び内訳

第1節 事業費の総額

総 額 230,000千円

第2節 事業費の内訳

種目	工種区分	工事内容	工事費 千円	備考
事業費	区画整理	整地工 A = 6.3ha A = 6.5ha	17,000 18,000	
		道路工 支線他 L = 1.15 km 支線他 L = 1.11 km	12,000 11,000	
		用水路工 パイプライン L = 1.11 km	44,000	
		用水路工 開水路 L=0.55km 開水路 L=0.40km	17,000 13,000	
		排水路工 用排水路含むL=1.20km 用排水路含むL=1.28km	47,000 50,000	
		暗渠排水工 A = 6.3ha A = 6.5ha	12,000 13,000	
		小計	149,000	
	測試他	測 25, 補償 10, 換 20 , 工 5	60,000	
	鳥獣侵入防止柵		11,000	
	計		220,000	
地方事務費			10,000	
合計			230,000	

第11章 効 用

(第27表－1)

事業名	項目	年総効果(便益)額 (千円)	年増加農業所得額 (千円)	現況年総農業所得額 (千円)	備 考
	区分				
農地整備事業	食料の安定供給の確保に関する効果	34,208	31,118		
		31,426	28,593		
	作 物 生 産 効 果	6,195	2,766		
		6,349	3,168		
	営 農 経 費 節 減 効 果	28,184	28,454		
経営体育成型		25,272	25,547		
	維 持 管 理 費 節 減 効 果	△171	△102		
		△195	△122		
	農業の持続的発展に関する効果				
	耕 作 放 棄 防 止 効 果				
その他	災 害 防 止 効 果				
	農 業 労 働 環 境 改 善 効 果				
	農 業 の 振 興 に 関 す る 効 果				
	非 農 用 地 等 創 設 効 果				
	そ の 他 効 果	517	0		
計		583	0		
	国産農産物安定供給効果	517			
		583			
計		34,725	31,118	2,207	1.67
		32,009	28,593	2,282	総費用総便益比 1.54

第12章 関 連 す る 事 業

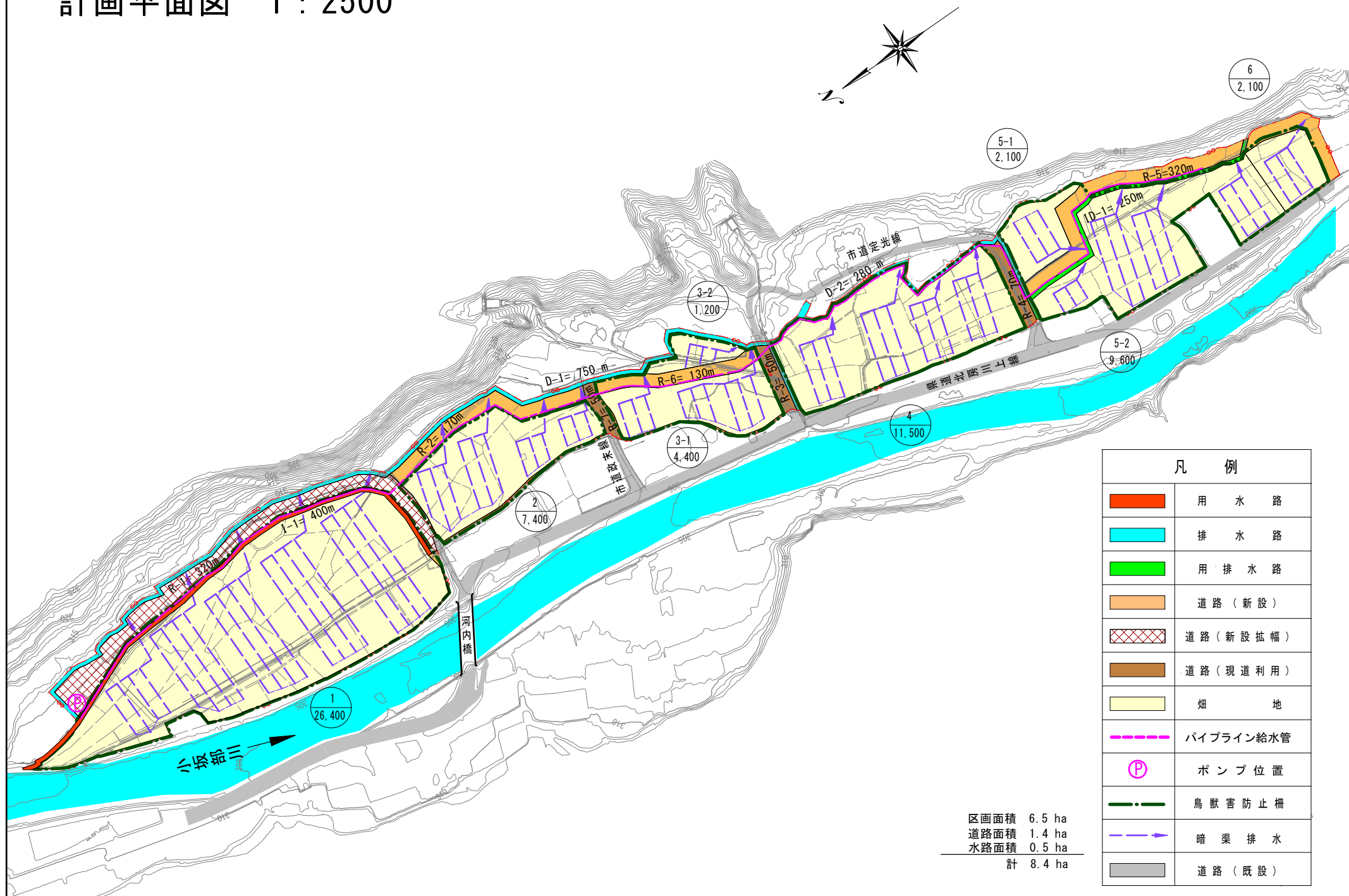
該当なし

第13章 現 況・計 画 図 面

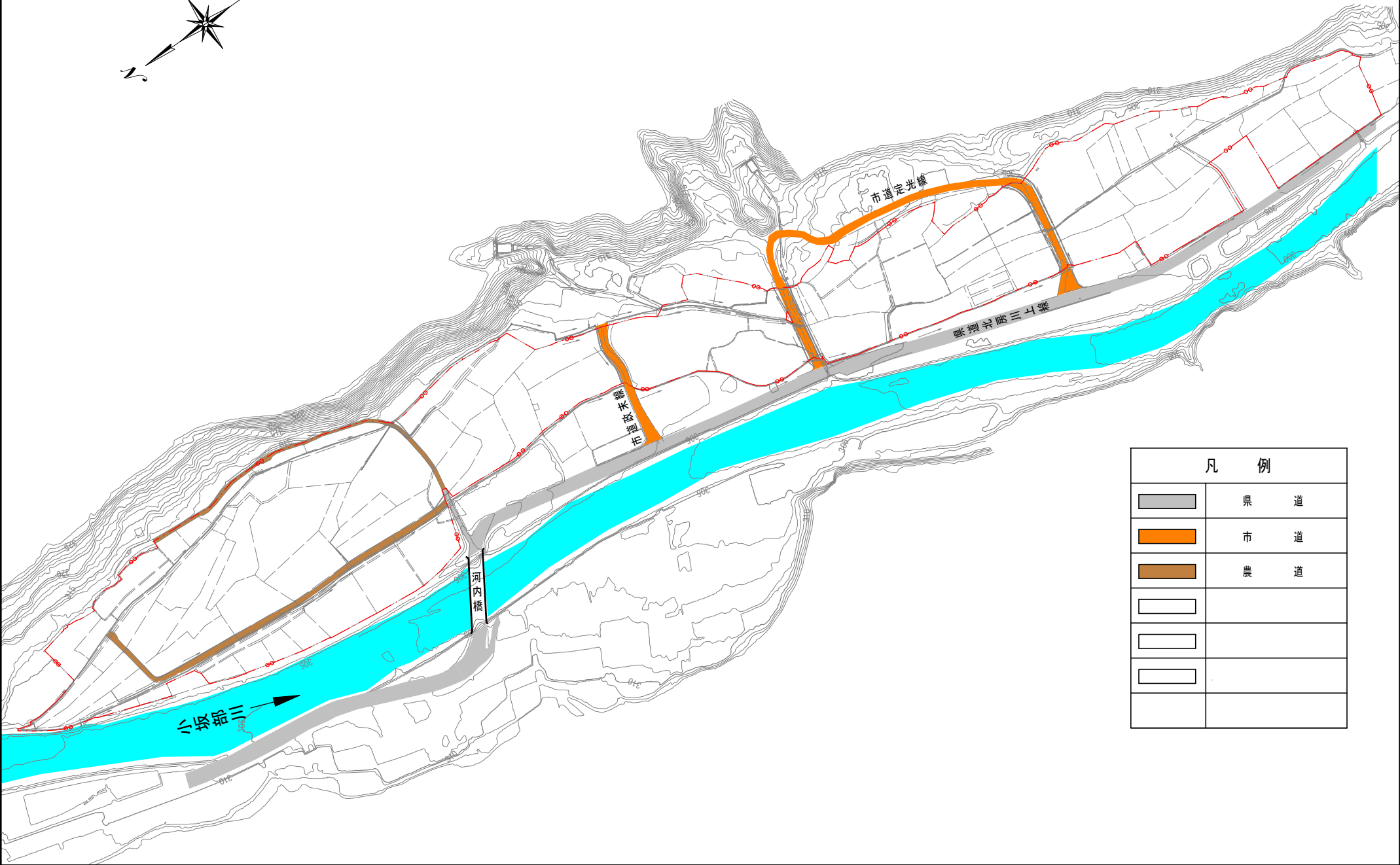
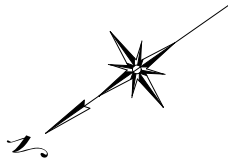
全体計画図参照

添 付 図 面

計画平面図 1 : 2500

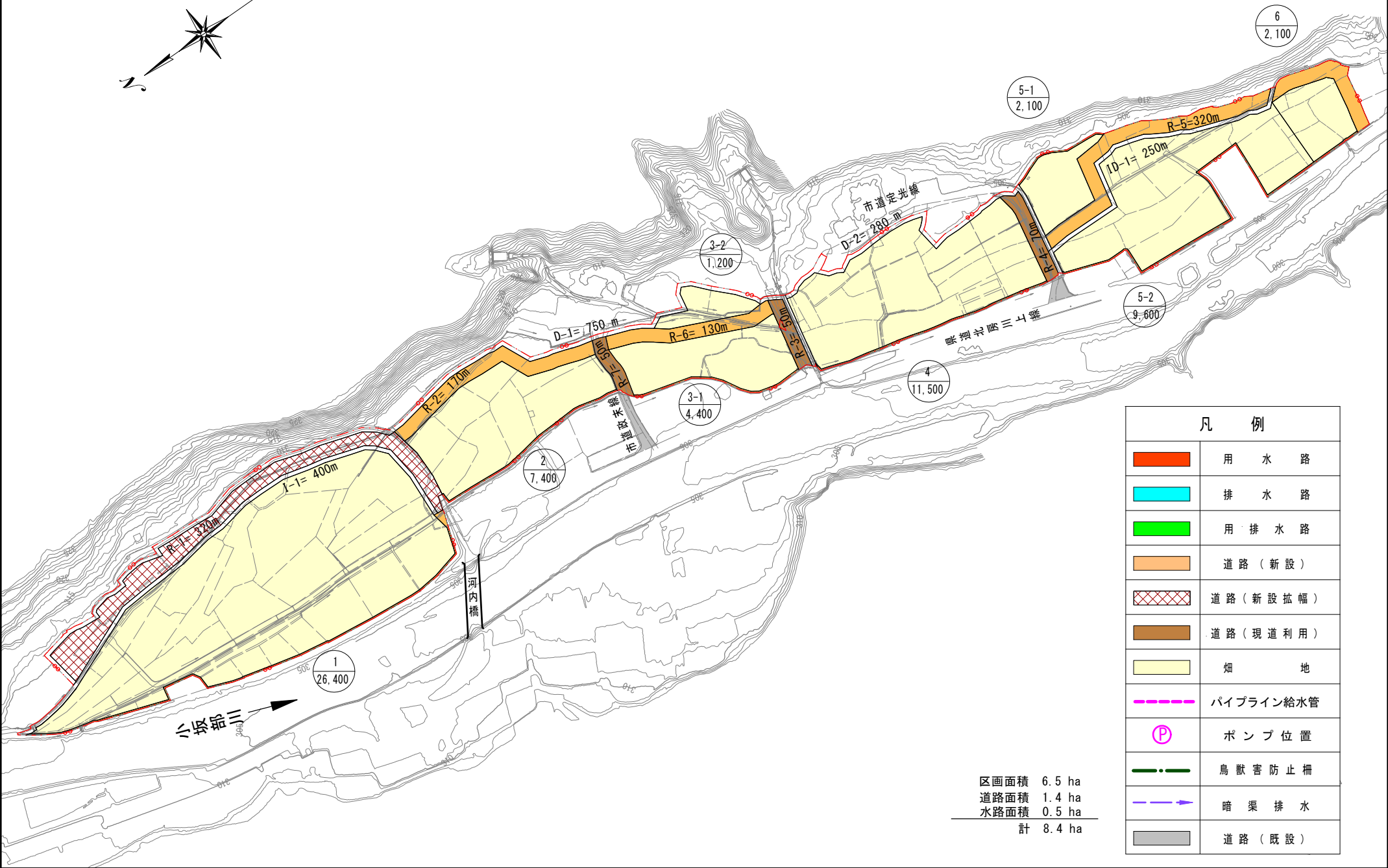


現況道路網図 1 : 2500



凡 例	
	県 道
	市 道
	農 道

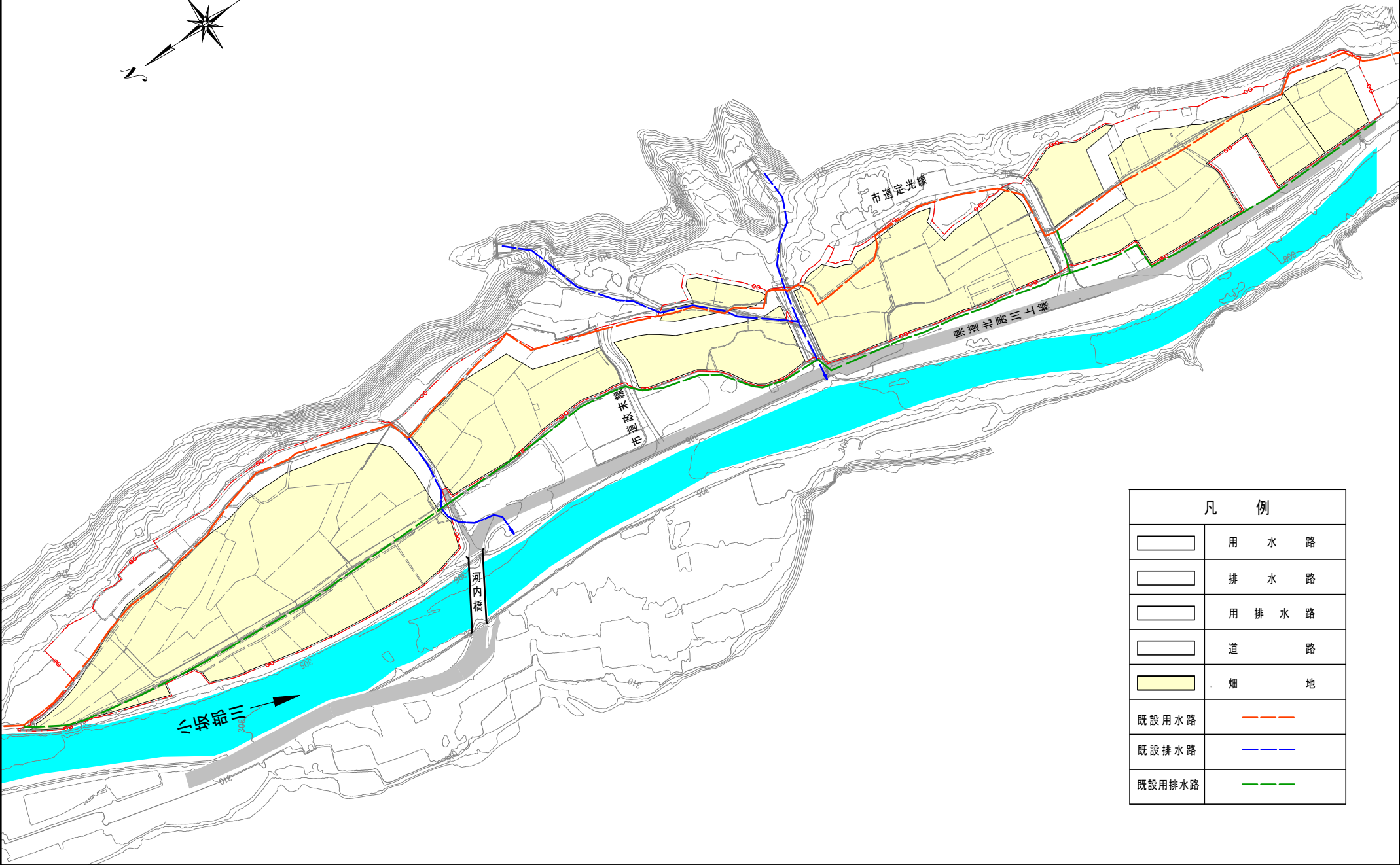
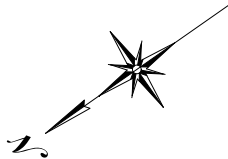
計画道路網図 1 : 2500



凡 例	
	用 水 路
	排 水 路
	用 排 水 路
	道 路 (新 設)
	道 路 (新 設 拡 幅)
	道 路 (現 道 利 用)
	畑 地
	パイプライン給水管
	ポ ン プ 位 置
	鳥 獣 害 防 止 柵
	暗 渠 排 水
	道 路 (既 設)

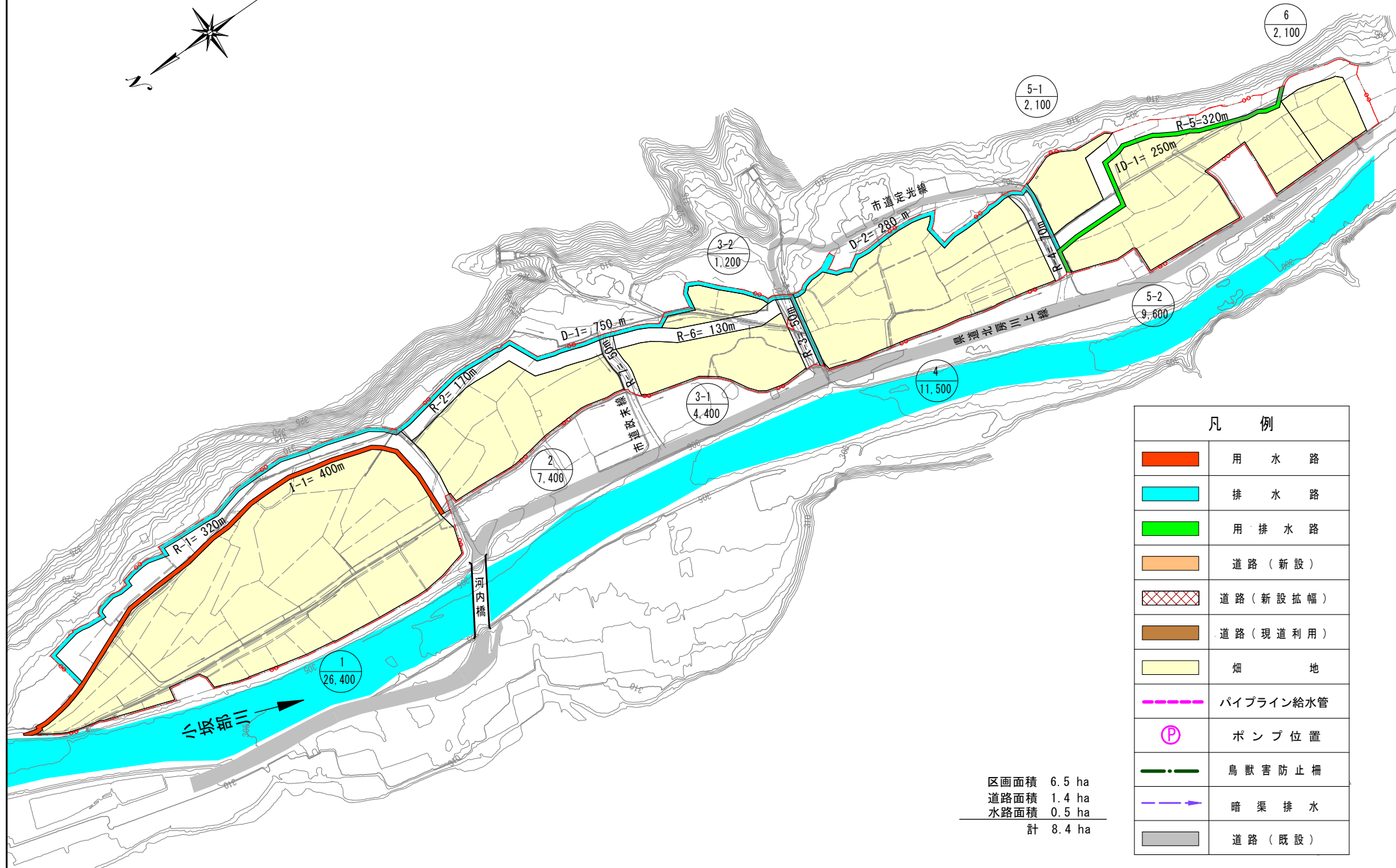
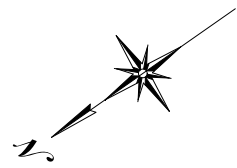
区画面積	6.5 ha
道路面積	1.4 ha
水路面積	0.5 ha
計	8.4 ha

現況用排水路系統図 1 : 2500



凡 例	
	用 水 路
	排 水 路
	用 排 水 路
	道 路
	畑 地
既設用水路	
既設排水路	
既設用排水路	

計画用排水路系統図 1 : 2500

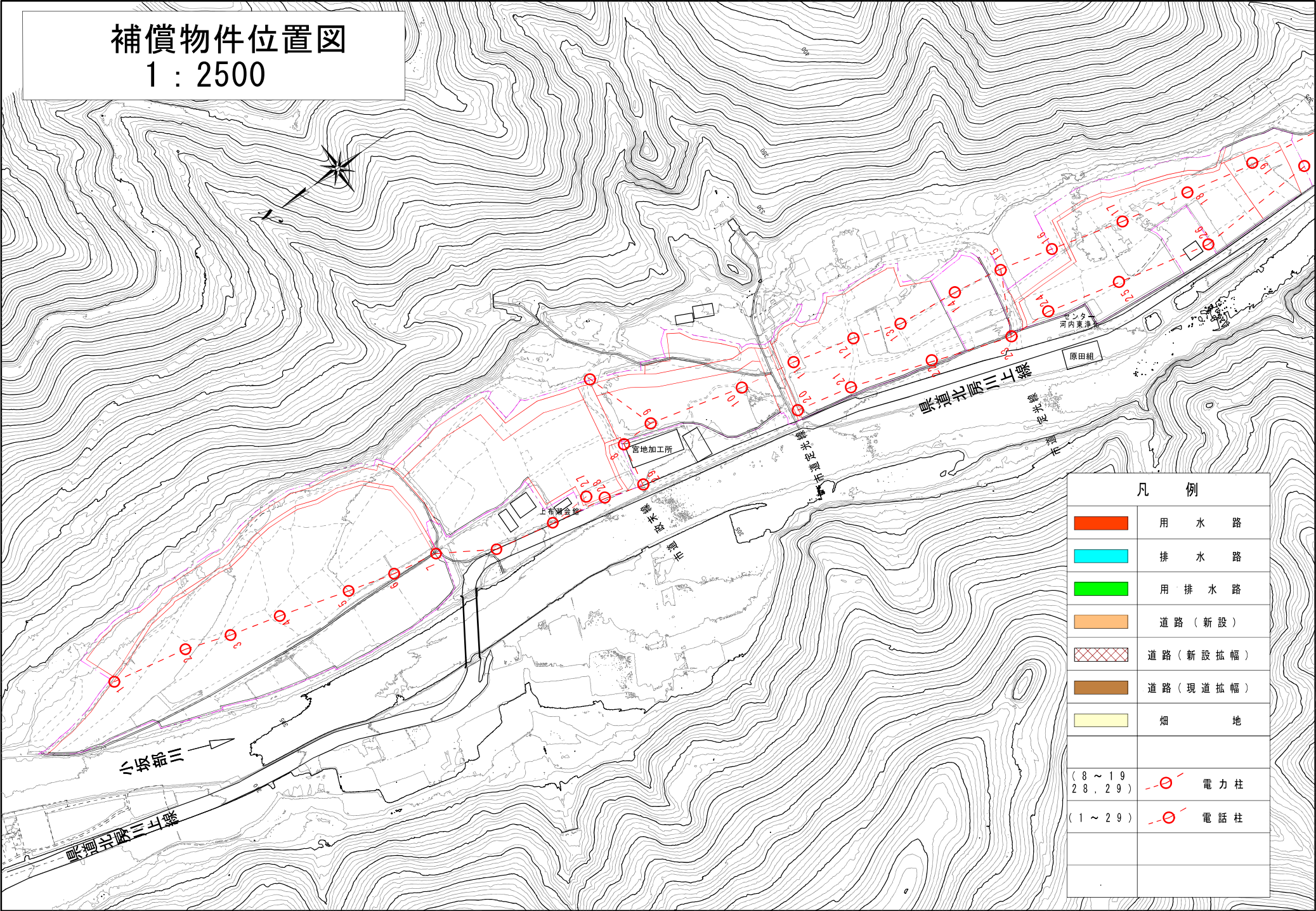


区画面積 6.5 ha
道路面積 1.4 ha
水路面積 0.5 ha
計 8.4 ha

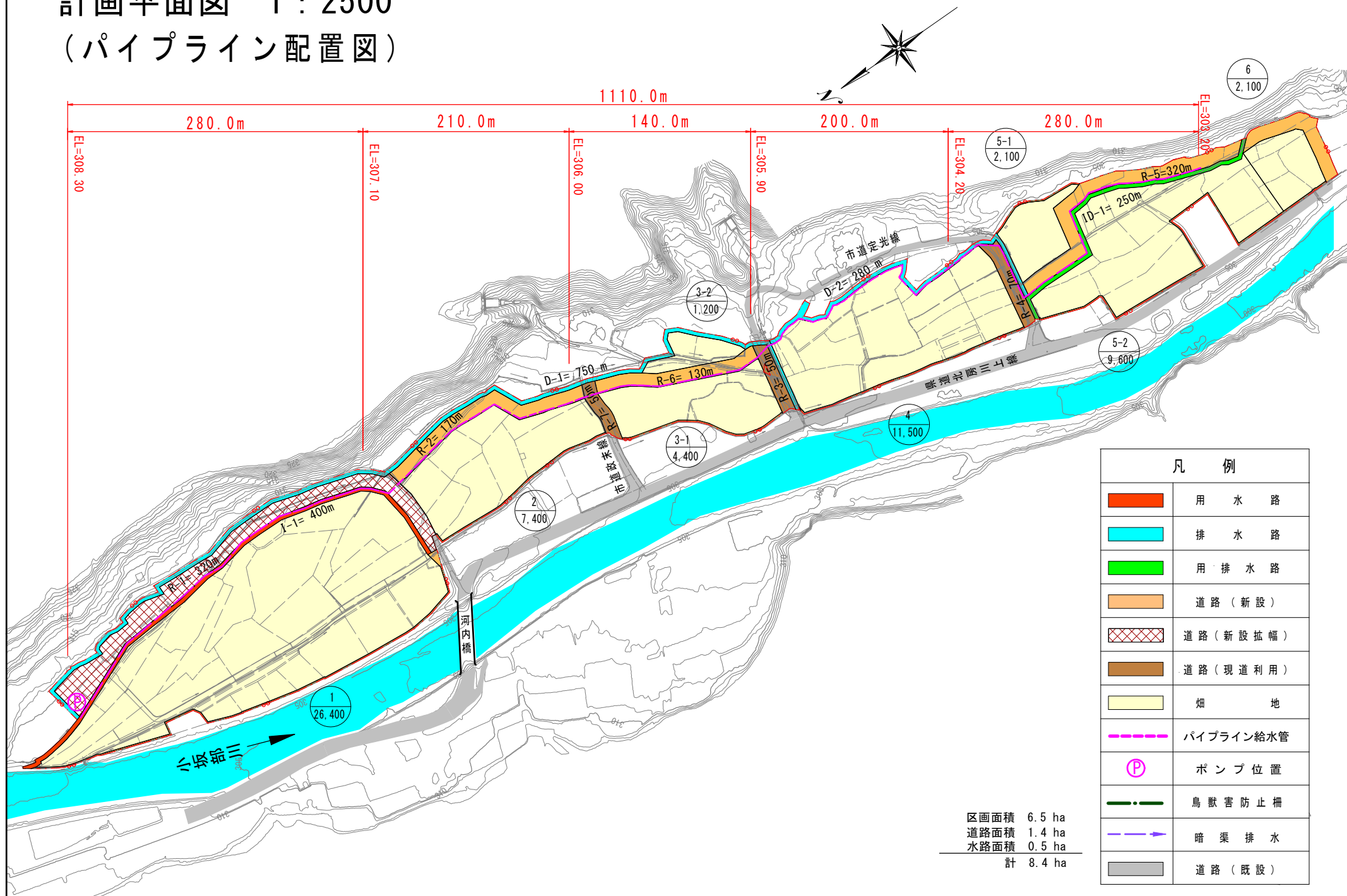
凡 例	
	用水路
	排水路
	用排水路
	道路（新設）
	道路（新設拡幅）
	道路（現道利用）
	畑地
	パイプライン給水管
	ポンプ位置
	鳥獣害防止柵
	暗渠排水
	道路（既設）

補償物件位置図

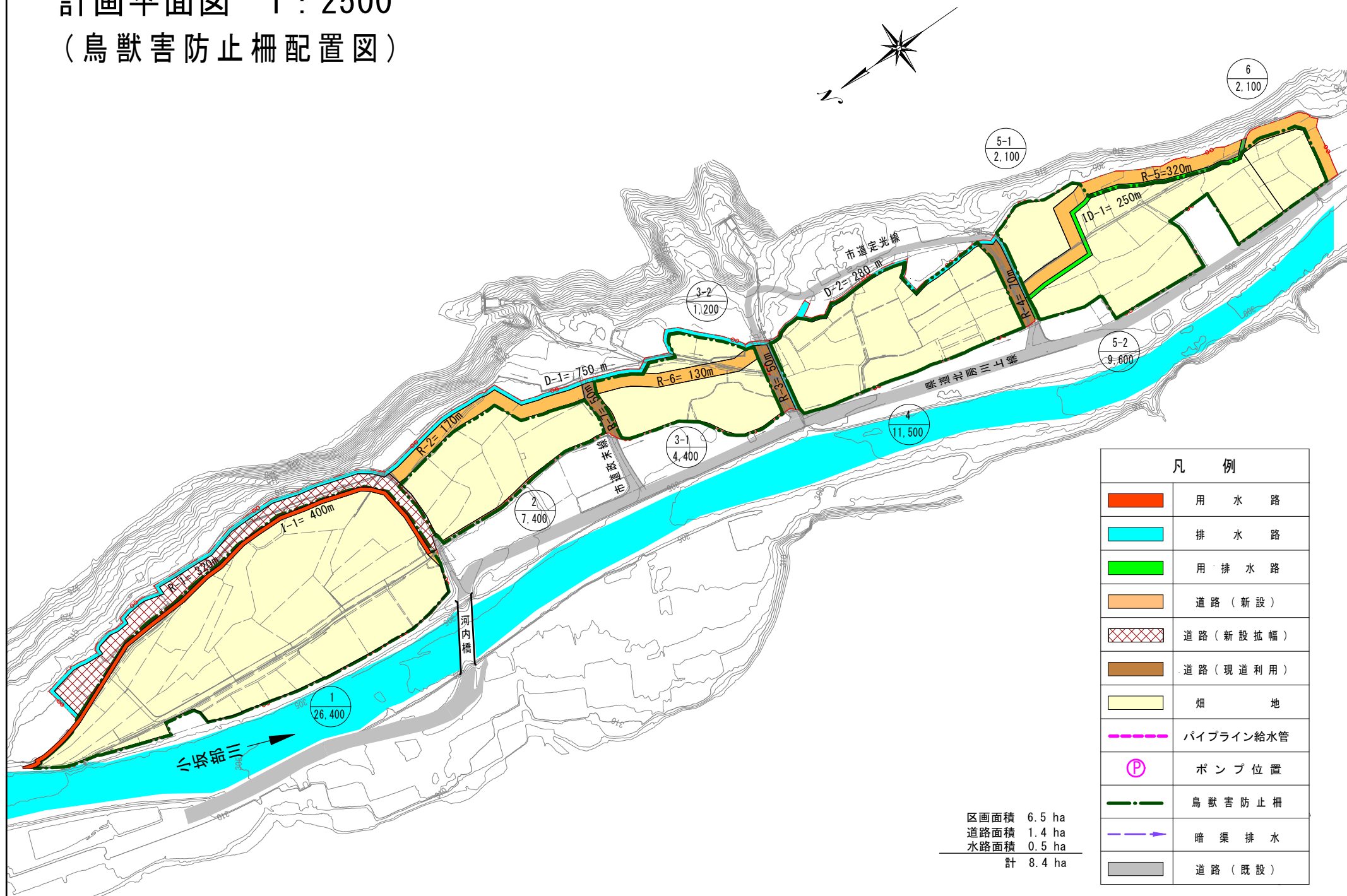
1 : 2500



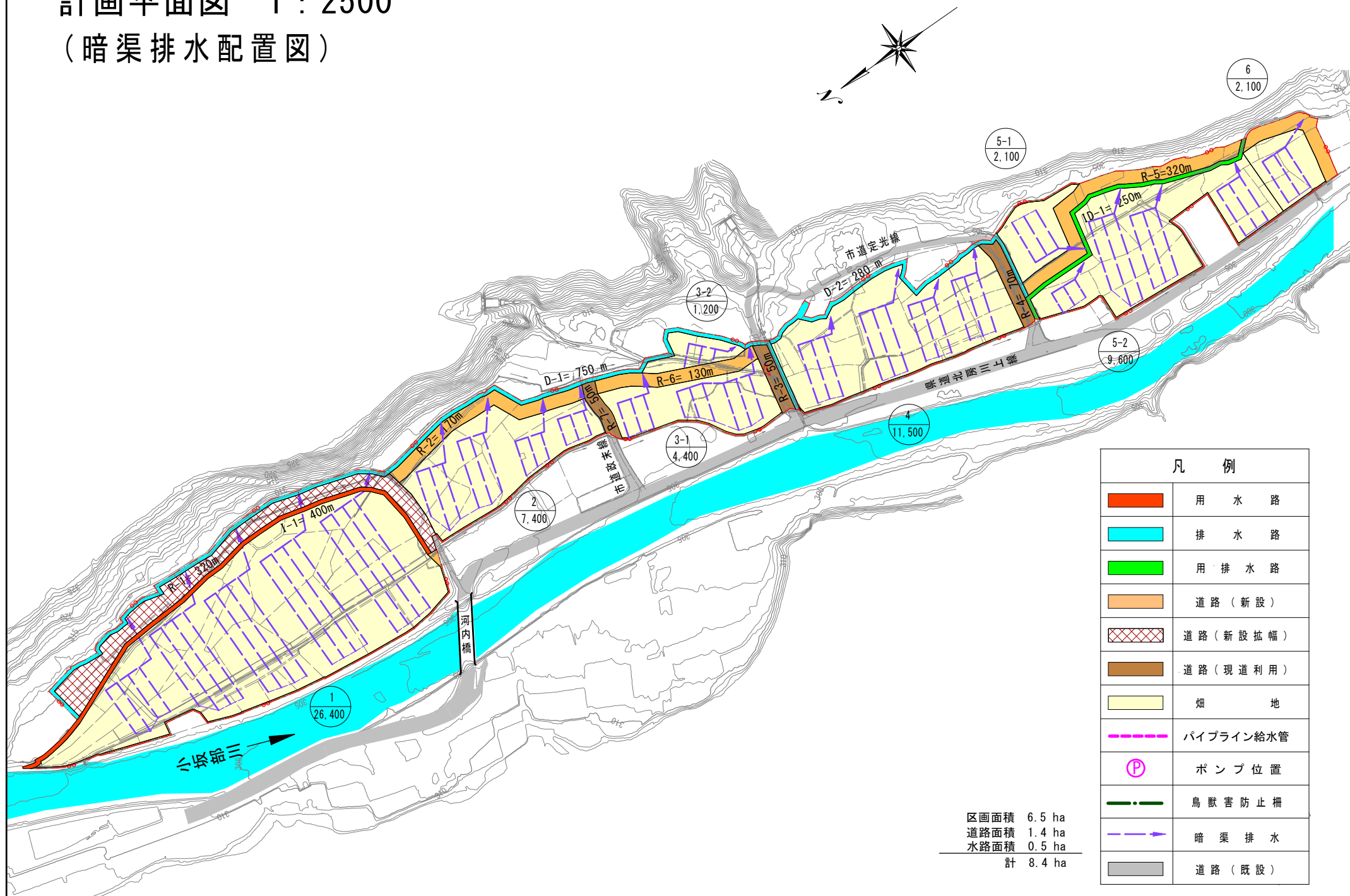
計画平面図 1 : 2500 (パイプライン配置図)



計画平面図 1 : 2500
(鳥獣害防止柵配置図)



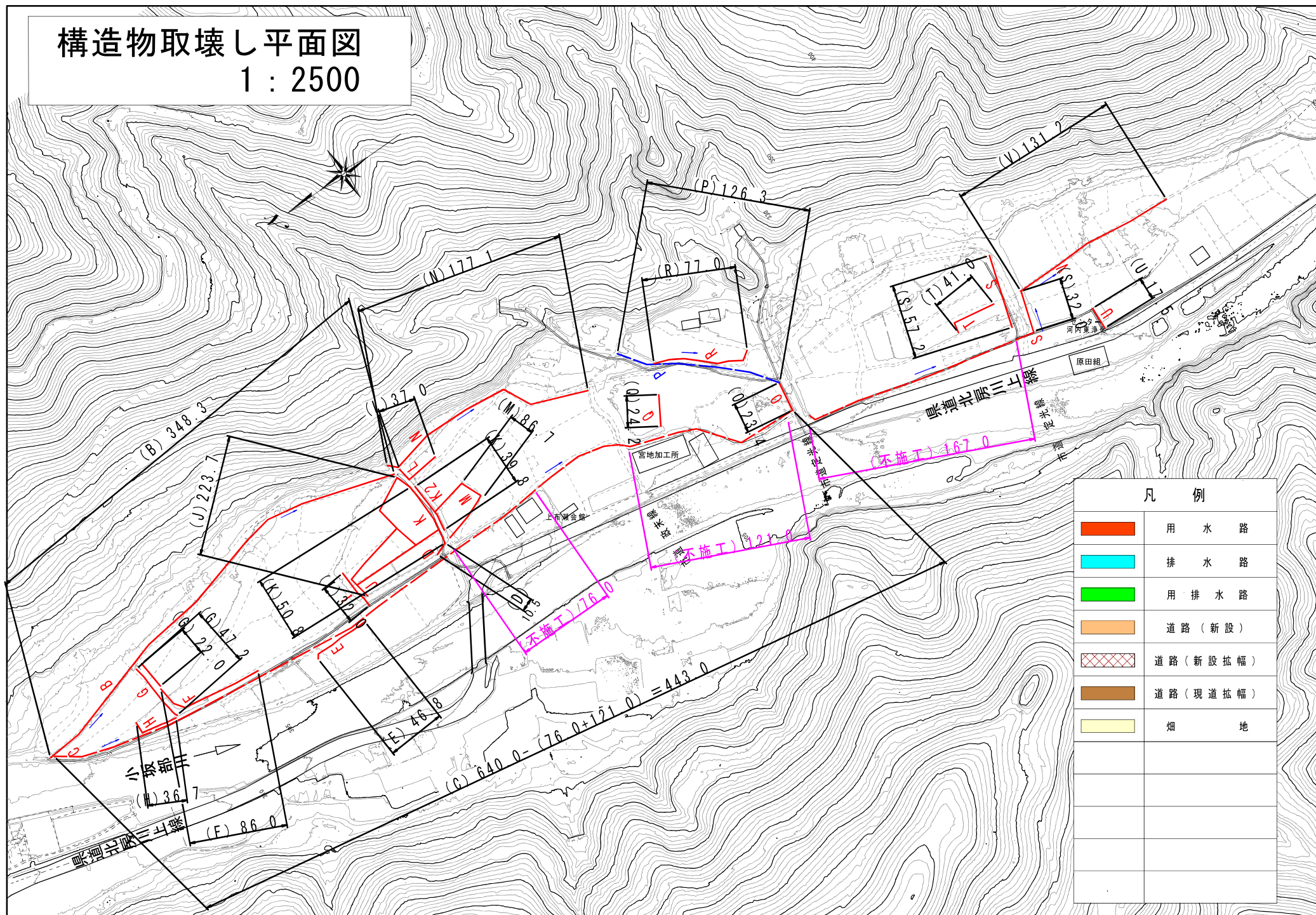
計画平面図 1 : 2500 (暗渠排水配置図)



区画面積 6.5 ha
道路面積 1.4 ha
水路面積 0.5 ha
計 8.4 ha

凡 例	
	用水路
	排水路
	用排水路
	道路(新設)
	道路(新設拡幅)
	道路(現道利用)
	畑地
	パイプライン給水管
	ポンプ位置
	鳥獣害防止柵
	暗渠排水
	道路(既設)

構造物取壊し平面図 1 : 2500



凡 例	
	用 水 路
	排 水 路
	用 排 水 路
	道 路 (新 設)
	道 路 (新 設 拡 幅)
	道 路 (現 道 拡 幅)
	畑 地

B KF350 L=348, 3	I L=32, 0	P L=126, 3
C 500 × 700 L=443, 0	J L=223, 7	Q L=24, 2
D L=10, 5	K L=50, 8+39, 8=90, 6	R L=77, 0
E L=46, 8	L L=37, 0	S L=32, 0+57, 2=59, 2
F L=86, 0	M L=86, 7	T L=41, 0
G L=22, 0+47, 2=69, 2	N L=177, 1	U L=17, 5
H L=36, 7	O L=23, 4	V L=131, 2

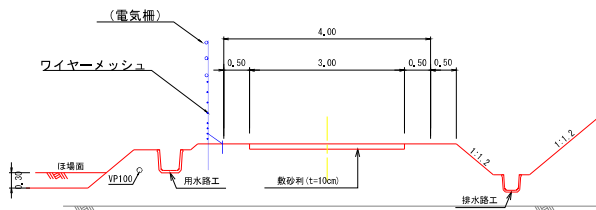
構造物標準図(1)

道路工標準断面図

S=1:50

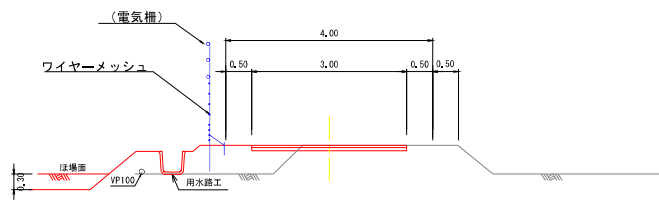
支線道路 (W=4.0m)

(砂利舗装)



市道拡幅部 (W=4.0m)

(アスファルト舗装)



市道復旧舗装構成

S=1:25

As 諸裝

表	層：密粒度As t=4cm
---	---------------

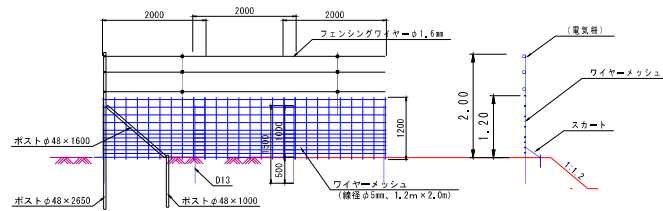
上層路盤：N30 t=9cm

(※新見市の舗装構成に準拠する。)



鳥獸害防止柵構造図

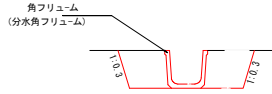
S=1:50



構造物標準図(2)

用排水構造物

角フリューム
S=1:20

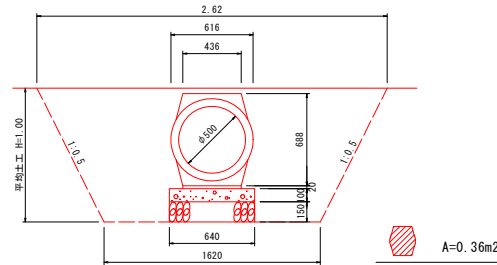


角フリューム10.0m当り

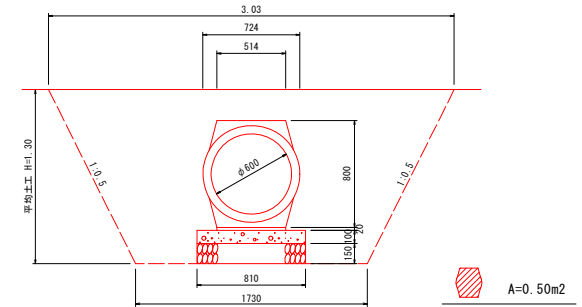
呼び名 KF	A (mm)	h (mm)	H (mm)	b1 (mm)	b2 (mm)	床幅 (m3)	埋戻 (m3)	床均し (m2)
250	250	250	282	850	1019	2.64	1.94	2.50
300	300	300	335	900	1101	3.35	2.35	3.00
350	350	350	385	950	1181	4.10	2.75	3.50
400	400	400	446	1000	1268	5.06	3.28	4.00
450	450	450	496	1050	1348	5.95	3.72	4.50
500	500	500	557	1100	1434	7.06	4.27	5.00

床幅: (b1+b2) × 1/2 × H × 10.0
床均し: A × 10.0
埋戻: 床幅 × 埋戻数量
埋戻数量: A × H × 10.0
注: 寸法単位はmm変換

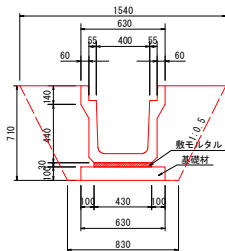
重圧管 φ500
S=1:20



重圧管 φ600
S=1:20



U型側溝 (横断用)
S=1:20



10m当り

種 別	規 格	算 式	数 量	単 位
U形側溝	横断用 B400-H400	10/2.0	5.0	本
敷モルタル	1:3	0.43 × 0.03 × 10	0.13	m3
均しコンクリート	σck18N/mm2	0.63 × 0.10 × 10	0.63	m3
全上型枠	均 し	0.10 × 2 × 10	2.0	m2
グレーチング蓋	I-25	10/0.995	10.0	枚
床 掘	土 砂	(1.540+0.830)/2 × 0.710 × 10	8.4	m3
埋戻し	(D)W1<1.0	0.22 (CAD計測) × 2 × 10	4.4	m3
基面整正	土 砂	0.63 × 10	6.3	m2

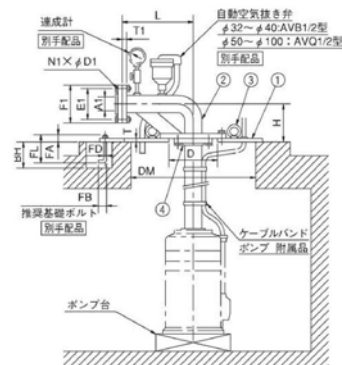
10m当り

種 別	規 格	算 式	数 量	単 位
重圧管	φ500	10.0/2.0	5.0	本
敷モルタル	1:3	0.436 × 0.02 × 10.0	0.09	m3
基礎コンクリート	σck18N/mm2	0.64 × 0.10 × 10.0	0.64	m3
全上型枠	均 し	0.10 × 2 × 10.0	2.0	m2
基礎砕石	RC-40, t=15cm	0.64 × 10.0	6.4	m2
床 掘	土 砂	(2.62+1.62)/2 × 1.00 × 10.0	21.2	m3
埋戻し	(C)1.0 ≤ W1 < 4.0	21.2 - (0.36+0.436 × 0.02+0.64 × 0.25) × 10.0	15.9	m3
基面整正	土 砂	0.64 × 10.0	6.4	m2

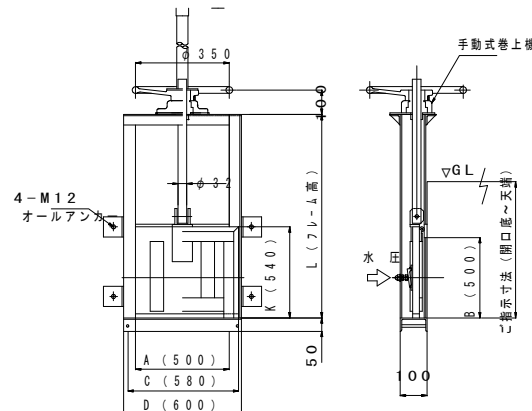
10m当り

種 別	規 格	算 式	数 量	単 位
重圧管	φ600	10.0/2.0	5.0	本
敷モルタル	1:3	0.514 × 0.02 × 10.0	0.10	m3
基礎コンクリート	σck18N/mm2	0.81 × 0.10 × 10.0	0.81	m3
全上型枠	均 し	0.10 × 2 × 10.0	2.0	m2
基礎砕石	RC-40, t=15cm	0.81 × 10.0	8.1	m2
床 掘	土 砂	(3.03+1.73)/2 × 1.30 × 10.0	30.9	m3
埋戻し	(C)1.0 ≤ W1 < 4.0	30.9 - (0.50+0.514 × 0.02+0.81 × 0.25) × 10.0	23.9	m3
基面整正	土 砂	0.81 × 10.0	8.1	m2

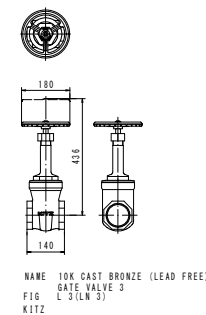
ポンプ設備 断面図



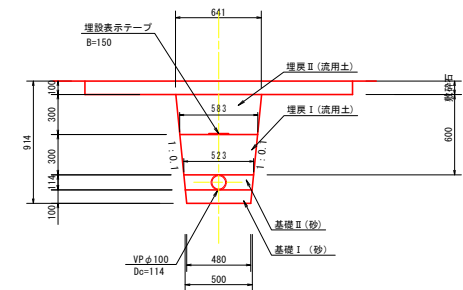
スライドゲート



ゲートバルブ



パイプライン

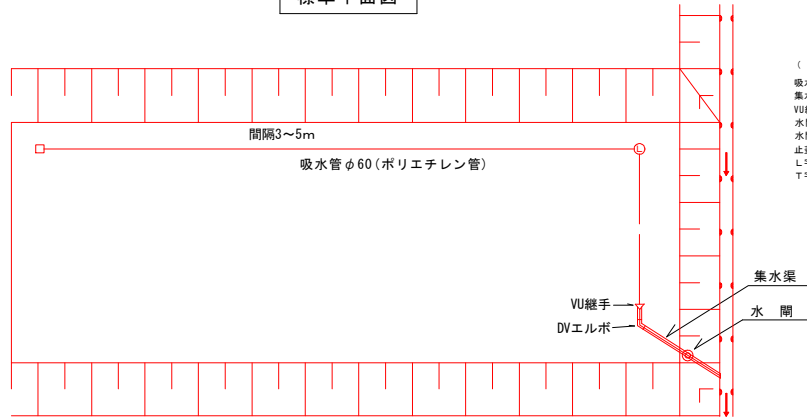


管 種	床幅 (m)	床均し (m)	基礎I (砂) (m)	基礎II (砂) (m)	埋戻I (流用土) (m)	埋戻II (流用土) (m)	残土 (m)
VPφ100	0.46	0.48	0.05	0.05	0.17	0.18	0.11

構造物標準図(3)

暗渠排水

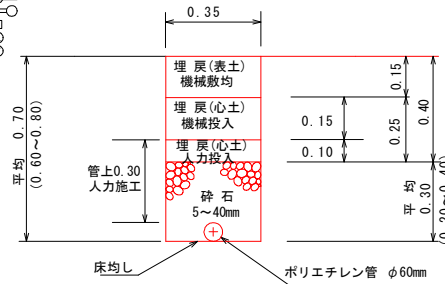
標準平面図



(凡 例)

- 吸水きよ (ポリエチレン管)
- 集水きよ (VU管)
- VU継手 (異径ソケット)
- 水 閥 (ねじ式水閥)
- 止 蓋 (ねじ式水閥)
- L 字管
- T 字管

吸水渠φ60

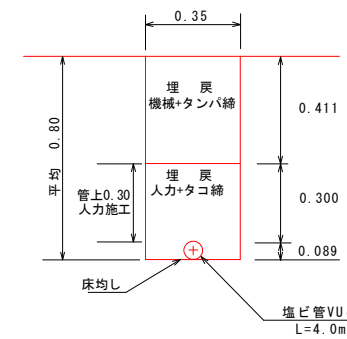


標準断面図

S=1:10

集水渠φ75

(畦畔部)
(道路部)



縦断面図

S=1:50

